



都市大塩尻1松商学園 3回裏松
商学園無死二、三塁、2点中前打
を放つ藤井、捕手原、二走梨木

3年間 組めて良かった

白球

一回2死一、三塁で、投球動作に入った都市大塩尻のエース石田航大投手(三年)の動きが止まった。痛恨のブロック。思いがけない形での失点に球場がどよめく中、主将の原航大捕手(同)は自分でも意外なほど冷静だった。「まだ初回。自分たちが取り返せばいい」二人は高校入学直後からバッテリーを組んできた。甲子園出場を誓い合い、厳しい練習に打ち込んでいた昨夏、石田投手

都市大塩尻 石田投手、原捕手



5回途中、先発・石田投手(右)と話す原主将

は左肩を故障した。手が背番号1を背負うしかなかった。全体練習は石田投手の代わりに昨秋の大会は急ぎ、原捕手はあったが「正直、不安球フォームの確認や走り

込みを重ね、絆はさらに深まった。石田投手は最後の夏を前に復調。力強さを取り戻したエースは全試合で先発し、3試合で完投する活躍を見せたが、この日は5回途中で降板した。六回裏、思いを引き継いで原捕手がマウンドに上がった。石田投手は緊張で表情の硬い原捕手に「お前なら抑えられる」と声を掛けて送り出し、ピンチを迎えるとマウンドに駆けつけた。試合に敗れ、ベンチで泣き崩れる石田投手に、原捕手が「お前と組めて良かった」と声を掛けて上げた。無言で肩を抱き合った。(斎藤和音)